令和8年度　新有権者のメッセージ入賞者

別紙3

令和8年10月7日審査

賞区分	作　品	氏　名	学校名	学年
石川県選挙管理委員会委員長賞	世の中に少しでも不満や変えたい思いがあるなら、まずは投票に行こう。話はそれからだ。高齢者よりも長い年月を生きる若者が投票に行かないでどうするんだ。社会の行方を他人任せにしてはいけない。先人が築いた平和な環境に甘えるのではなく、自分たちの未来を選ぶために、今もこれからも一人の有権者として投票へ行こう。	山田（やまだ）　琉稀（るき）	石川県立金沢伏見高等学校	3
石川県明るい選挙推進協議会会長賞	初めての投票は、自分が社会の一員として責任を持ち社会に参加する最初の機会だと思う。自分の意思を示すことに大きな意味がある。ひとりの票が集まることで社会は成り立っている。そのため、候補者や政治についてしっかりと調べ、自分で考え納得のできる一票を入れたい。これをきっかけに政治について、少しずつ知ろうと思う。	中村（なかむら）　絢音（あやね）	石川県立羽咋工業高等学校	3
優　秀　賞	新有権者になり、初めての投票だからこそ、選挙に行ける日を楽しみに待っている。「行ったところで変わらない」、みんなはそう言うけれど。自分の一票で何かが変わるかもしれないと思うと、とてもワクワクする。新有権者だけでなく何度も選挙に参加している人も、選挙から足が遠のいた人も。みんなこの考えを持ちみんなで社会を作っていきたい。	今江（いまえ）　望花（もか）	石川県立羽咋工業高等学校	3
	初めて手にした一票は、私たちが社会に向かってあげる最初の「声」だ。「どうせ変わらない」ではなく、「私たちが変えていく」。そんな決意をして投票所へ向かうべきだ。小さな一票、小さな一歩かもしれないが、この一票が、私たち若い世代が望む新しい未来を創り出し、より良い社会を形成する。そう信じて、初めての投票をしたい。	大橋（おおはし）　航輝（こうき）	石川県立羽咋工業高等学校	3
	私がたった一票投票したところで変わらない。そう思っていた。だけど違った。その「たった一票」と呼べるものが「大事な一票」に変わる可能性があることを知ったから。私の一票で日本が今後どうなるのか決まるかもしれないから。だから私は投票したい。自分が、皆が住みやすいような日本を目指すために。	萬亀（ばんき）　哉汰（かなた）	石川県立金沢伏見高等学校	3
	「選挙行くよ」そう言われて私はハッとした。もう投票ができる年になったんだと感じた。嬉しさもありどこか不安も感じた。判断力が未熟な私が選挙に行ってもいいのだろうか。だが逆に私たちのような若者の意見がこれからの将来を作っていく中で貴重な一票になるのではないのだろうか。まずは一歩踏み出す勇気。若者の声を届けてゆこう。	大山（おおやま）　彩月（さつき）	石川県立田鶴浜高等学校	3